

令和7年度 第1回 BIM/CIM推進委員会幹事会 議事要旨

1. 開催日時：令和7年11月7日（金） 16時00分～18時00分
2. 場所：Web会議
3. 議事：
 - ・モデル事務所におけるBIM/CIMの取組について
 - ①新丸山ダム工事事務所
 - ②設楽ダム工事事務所
 - ③豊岡河川国道事務所
 - ④熊本河川国道事務所

主な議論の概要は以下のとおり

・モデル事務所におけるBIM/CIMの取組について

①新丸山ダム工事事務所

○CIMモデル監理者は、事務所の職員であるか。その場合、その職員が異動する際の引き継ぎはどのようにしているか。引継ぎ漏れや、モデルの作り直しやデータのバージョン違い等によるトラブルは発生していないか。

(回答：新丸山ダム工事事務所)

事務所の担当職員をCIMモデル監理者としており、異動の際は、後任の者にCIMモデル監理者の権限を引き継ぐ。通常の業務の引継ぎと同じであり、モデルに関するトラブルも今のところは発生していない。

○とても意欲的に取り組みを進められている。統合モデル（全体）は詳細度200～300で作られているが、個々の元データは詳細度400程度で作っているのか。それをダウンサイジングして、全体モデルとして組み上げているのか。そのあたりの手間や苦労など何か参考とするべきことはあるか。

(回答：新丸山ダム工事事務所)

ダウンサイジングのところで苦労しているが、今のところトラブルなどは有無も含め整理出来ていない。横展開ができる情報があれば共有できるよう検討していきたい。

○維持管理への引継ぎについては、概念的にはよく話題に上がるがなかなか進んでおらず、維持管理段階を見据えて必要なデータを施工段階で取得、蓄積することは難しいテーマであると思っている。維持管理段階で必要なデータをどのように特定していくつもりか。

(回答：新丸山ダム工事事務所)

具体的な内容は検討中であるが、管理を引き継ぐ木曽川水系ダム統合管理事務所とも議論して、どんなデータが必要であるか明確にしようと考えている。

○まずは切り口でも良いので、是非トライアルして欲しい。

②設楽ダム工事事務所

○設計段階で作成した3次元モデルを施工段階に引き渡すこと、もしくは施工の進捗に応じて3次元モデルを更新して複数の業者へ引き渡すことが想定されるが、3次元モデルについて問題なく更新や引き渡しが行われているか。もし課題を感じている場合は、その改善策を検討しているか。

(回答：設楽ダム工事事務所)

クラウドに保管するデータは1年に1度の頻度で各受注者から受領した成果を更新している。データの引き渡しについて、ダムの本体工事には長い期間同じ施工業者が携わっていることもあり現在のところトラブルは生じていない。

○数値標高モデルやオルソ画像等、多種多様なデータを活用されていると思うが、事務所側から受注者に対して使用目的に応じた形式でのデータの提出を求める指示などは行っているか。

(回答：設楽ダム工事事務所)

データ提出にあたり、事前にシステムに載せるための形式での提出指示などは実施していない。

③豊岡河川国道事務所

○データシェアリングの課題整理として、全国道路施設点検DB、xROAD、RiMaDIS、三次元管内図など、道路系と河川系それぞれの重複管理の回避、データ取込連携はよく整理されている。道路と河川両方にまたがるデータの共有化にも取り組むのか。

(回答：豊岡河川国道事務所)

当事務所で行っている道路事業と河川事業は別々の箇所であるため、道路と河川両方にまたがるデータの共有化までは考えていない。

特に河川では全国的に三次元管内図が作成されており、事務所独自でプラットフォームを作成するというよりは、事務所が必要なデータと三次元管内図を連携していくことを考えている。例えば円山川中郷遊水地整備事業は軟弱地盤が課題の一つになっているため、堤防の沈下管理や築堤に使用する盛土材の土質データ等を蓄積して三次元管内図と連携していくことを検討している。

○統合プラットフォーム活用に関する検討のところで地下埋設物データへの言及があるが、各事業者の地下埋設物も対象なのか。

(回答：豊岡河川国道事務所)

北近畿豊岡自動車道は高規格幹線道路の新設であり、融雪整備の管や光ケーブルの管などのデータは事務所で所持しているので、今後取り込んでいく予定である。一方で、一般国道の地下埋設物のあり方については、多様な主体が関わり課題も多いと認識している。昨年度は他の道路事業者と意見交換を行ったが、各事業者や各種検討会の情報を収集しながら最適な解決策を模索している状況。

○各事業者や事務所も関心が高い事項と思うので、引き続き精力的に検討を進めていただきたい。

○地場企業や発注者を対象とした講習会開催など、地域の底上げに関する取り組みを丁寧に実施していることは素晴らしい。他の事務所も参考にして取り組んでほしい。

○「データ管理の全体像」はとても良くまとめられている。今後、豊岡道路（Ⅱ期）工事でも再度詳細な検討を行うとのことで、是非取り組みを続けてほしい。他の事務所でも参考になると思うので横展開いただくと、プラットフォーム構築に関するアイデアがさらに深まると思う。

○地場企業や発注者を対象とした講習会開催は素晴らしい取組。講習会等の中で、BIM/CIM に関わる若手の担当者から「なぜこの書類が必要なのか」、「この作業は重複しているのではないか」、「BIM/CIM を活用すれば改善できるのではないか」などの意見はあったか。

(回答：豊岡河川国道事務所)

当事務所は近畿地整の中でも新規採用者が比較的多い事務所であり、若手には「自分の業務でこうやつたらもっと楽になる」といった提案や意見がないかを聞いている。若手の中にはパソコン等の操作スキルが高い職員も多く、3次元 CAD も比較的早く操作のコツをつかんでいる。

工事受注者の方とは日頃から情報共有や意見交換を行っている他、地場企業を対象とした勉強会を実施して地域における取り組み拡大、深度化を図っている。

④熊本河川国道事務所

○河道変化を見る化したモデルは、維持管理につながる先進的な取り組みで、世界的にもあまり進められていないものなので、是非進めてほしい。将来的には河道に留まらず、縦横断測量の成果も活用することで平時の維持管理や災害時の対応にも使えるようになるとよい。今後の課題であると思うが、河川整備基本方針や河川整備計画などの中長期の計画と現状の対応、事業進捗によりどう安全度が上がっていくかなど時系列で確認できるようになれば素晴らしいと思うので、今後も検討を進めていただきたい。

(回答：熊本河川国道事務所)

今回は河道変化や施設の安全性見える化したモデルの話を取り上げたが、平時や災害時に活用できるよう、また将来的には整備計画や基本方針の検討にも活用できるよう、挑戦的な検討を進めていきたい。

その他

○BIM/CIM 積算の取組が進められていると聞いたが、モデル事務所で実施されているのか。

(回答：大臣官房 参事官（イノベーション）グループ)

BIM/CIM 積算については、全国の事務所の試行業務において昨年度から「橋梁下部」で試行的に進めており、今年度からは「砂防堰堤」にも試行を拡大している。3次元モデルで得られた数量データを半自動的に積算システムに取り込むもので、今後、対象工種を拡大しながら実装を進めていきたい。別途BIM/CIM推進委員会で報告する。

全体を通して

○どの事務所も先進的な取り組みを昨年度よりもさらに進められていて素晴らしい。今後の第2回、第3回の発表事務所の取組も期待している。

以上